

## 平成22年2月期 第2四半期決算短信

平成21年10月14日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 ブロccoli  
 コード番号 2706 URL <http://www.broccoli.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成21年10月15日  
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 上田 陽史  
 (氏名) 渡邊 朋浩

TEL 03-5946-2824

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年2月期第2四半期の連結業績(平成21年3月1日～平成21年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年2月期第2四半期	4,738	—	△190	—	△180	—	△188	—
21年2月期第2四半期	4,835	2.4	△314	—	△312	—	△425	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年2月期第2四半期	△5.78	—
21年2月期第2四半期	△13.01	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年2月期第2四半期	2,263	623	27.5	19.05
21年2月期	2,360	812	34.4	24.82

(参考) 自己資本 22年2月期第2四半期 623百万円 21年2月期 812百万円

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年2月期	—	0.00	—	—	—
22年2月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成22年2月期の連結業績予想(平成21年3月1日～平成22年2月28日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,985	2.8	△191	—	△186	—	△205	—	△6.27

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有  
新規 一社 (社名 ) 除外 1社 (社名 ブロccoli音楽出版株式会社 )  
[(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。]

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
[(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。]

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
② ①以外の変更 無

[(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。]

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年2月期第2四半期	32,713,211株	21年2月期	32,713,211株
② 期末自己株式数	22年2月期第2四半期	211株	21年2月期	211株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年2月期第2四半期	32,713,000株	21年2月期第2四半期	32,713,000株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 平成21年4月30日に公表いたしました連結業績予想のうち、通期について平成21年10月9日に開示いたしました資料において修正しております。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものでありますが、業績等につきましては現在当社グループが進めております業務提携の進捗の状況やその他様々な要因により、今後大きく異なる可能性があります。  
業績予想の前提となる仮定及び業績予想の修正のご利用にあたっての注意事項等について、及び上記1.に係る業績予想の具体的修正内容は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。
- 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、一部景気の底打ちが伝えられたものの、設備投資の減少や雇用悪化、個人消費の低迷が続き、きわめて厳しい状況で推移いたしました。

当社グループが属するエンターテインメント業界及び小売業界におきましては、根強い顧客層を背景とした比較的底堅い市場を維持しておりますが、DVDメディアからBlu-rayメディアへの急速な媒体移行に例を見られるように、消費者の商品付加価値に対する要求の高次化に伴い、商品選別・購買基準が厳格化する状況が続いております。

当社グループは、当第2四半期連結累計期間におきまして、アニプロゲーマーズ津田沼店の新規出店など、引き続き店舗収益構造の改革と、顧客層の拡大に向けた基盤づくりを図ってまいりました。

このような状況下、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,738百万円（前年同期比98.0%）、売上総利益率は21.4%と前年同期比1.2ポイント増加し、売上総利益は1,015百万円（前年同期比104.2%）となりました。この主な要因としましては、当第2四半期連結累計期間において在庫の適正化を図ったことにより、前第2四半期連結累計期間の974百万円に対して41百万円増加したことなどが挙げられます。

販売費及び一般管理費は、1,205百万円（前年同期比93.6%）となりました。

この結果、営業損失は190百万円、経常損失は180百万円、四半期純損失は188百万円となりました。

部門別の状況は次のとおりであります。

（リテール部門）

リテール事業部（店舗・通信販売）につきましては、既存店の売上高上昇および新規出店した津田沼店の業績好調などにより、店舗部門の売上高が3,193百万円（前年同期比104.6%）となりました。

通信販売部門の売上高につきましては、PCソフト商材における大型牽引タイトルの不足および経営資源の店舗運営への集中などにより、178百万円（前年同期比85.0%）となりました。

（店舗売上実績）

	当第2四半期 累計期間
	百万円
秋葉原本店	1,119
既存店(移転店舗含む)	2,061
新規店舗	12
閉店店舗	—
合計	3,193

（エンターテインメント部門：コンテンツ、ソフトの製造・販売及び他社商品の卸売）

エンターテインメント事業部につきましては、第2四半期もグッズ商品及び他社商品の卸売は、好調を維持し、イベント売上も「コミックマーケット76」において売上新記録を達成しましたが、カードゲーム主力商品のパワーダウン、8月度におけるTVゲームソフト3タイトルの発売延期を主要原因としまして、売上高は1,356百万円（前年同期比89.2%）に留まりました。

（子会社等）

ブロッコリー音楽出版株式会社の売上高は9百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

（流動資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は1,934百万円で、前連結会計年度末に比べ86百万円減少しております。未収入金の増加114百万円、売掛金の減少167百万円が主な要因であります。

（固定資産）

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は328百万円で、前連結会計年度末に比べ10百万円減少しております。持分法投資益などによる投資有価証券の増加13百万円、保証金の減少23百万円が主な要因であります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は1,129百万円で、前連結会計年度末に比べ91百万円増加しております。未払金の増加29百万円、短期借入金の増加100百万円、未払法人税等の減少10百万円、各種引当金の減少25百万円が主な要因であります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は前連結会計年度末に比べ大きな変動はありません。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は623百万円で、前連結会計年度末に比べ188百万円減少しております。これは、四半期純損失の計上により利益剰余金が188百万円減少しているためであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

第2四半期連結累計期間の業績を踏まえ、店舗部門の下期売上計画を見直したことなどにより、通期の連結業績予想につきましては、平成21年10月9日に開示いたしましたとおり、平成21年4月30日の決算短信で発表した予想から下記の通り修正しております。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 10,737	百万円 110	百万円 102	百万円 80	円 銭 2.45
今回発表予想 (B)	9,985	△ 191	△ 186	△ 205	△6.27
増減額 (B-A)	△ 752	△ 301	△ 288	△ 285	—
増減率 (%)	△ 7.0	—	—	—	—
前期実績	9,713	△ 448	△ 493	△ 838	△25.62

#### 4. その他

##### (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(主要な関係会社の異動)

当社の連結子会社であるブロッコリー音楽出版株式会社については、グループの効率化、合理化を図ることを目的として、平成21年8月1日付で吸収合併いたしました。

##### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

###### 1. 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産につきましては、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

##### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

##### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度におきまして、営業損失448,435千円、経常損失493,159千円、当期純損失838,179千円の重要な営業損失、経常損失及び当期純損失を計上するとともに、営業キャッシュ・フローも797,689千円の大幅なマイナスとなり、また、2期連続して営業損失を計上しております。当第2四半期連結累計期間におきましても、営業損失190,166千円、経常損失180,615千円、四半期純損失188,963千円を計上し、営業キャッシュ・フローもマイナスの107,816千円であることから、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、このような状況を解消すべく、資本・業務提携先である株式会社アニメイトとの関係を強化し、同社との人的交流を深めていくことで、店舗運営を中心とした経営ノウハウの向上、及び販売力、サービス力、商品企画力並びに新商品創出力を高めるとともに、同社と一体となって新ブランド「アニプロゲーマーズ」のブランディングを加速化することで、「アニプロ」店舗の活性化を図り、顧客満足度の高い店舗作りに取り組んでまいりました。

これらを実現すべく、具体的な体質改善及び採算性と収益性を高めるための施策は以下のとおりであります。

まず、店舗戦略としては、当第2四半期連結会計期間に今後の収益性の向上に寄与することが期待できる津田沼店を新規出店いたしました。また、平成21年9月には顧客満足度と収益性の向上を目的として当社グループの旗艦店である秋葉原店をリニューアルオープンいたしました。

第二に、店舗在庫戦略として、適正在庫水準の見直しと、これに係る管理を強化することで、過剰在庫を削減し、顧客満足度と収益性及び採算性を実現させる商品仕入の遂行と適正在庫の維持・管理に取り組んでまいります。

第三に、エンターテイメント事業として収益性の高い自社制作グッズのラインナップを強化。開発タイトルを厳選し、株式会社アニメイトとの事業シナジーを高め、女性向けゲームの開発ラインの確立を推進してまいります。

上記の施策を着実に推進することにより、経営の効率化を図り、安定的な収益基盤を構築すべく努めてまいります。

5. 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	250,950	239,018
売掛金	328,118	495,174
商品及び製品	838,243	866,672
仕掛品	88,347	66,176
原材料及び貯蔵品	4,321	1,948
未収入金	327,434	213,186
その他	103,949	145,180
貸倒引当金	△6,879	△6,581
流動資産合計	1,934,486	2,020,776
固定資産		
有形固定資産	37,920	41,352
無形固定資産	6,196	6,261
投資その他の資産		
敷金及び保証金	216,279	239,598
その他	70,823	54,962
貸倒引当金	△2,494	△2,494
投資その他の資産合計	284,607	292,066
固定資産合計	328,725	339,679
資産合計	2,263,211	2,360,455
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	460,709	484,752
短期借入金	100,000	—
未払金	223,138	193,863
未払法人税等	16,286	26,473
返品調整引当金	22,495	25,437
店舗閉鎖損失引当金	226,000	243,000
その他の引当金	22,307	27,923
その他	58,310	36,277
流動負債合計	1,129,246	1,037,728
固定負債		
長期借入金	500,000	500,000
その他	10,764	10,668
固定負債合計	510,764	510,668
負債合計	1,640,011	1,548,396

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,877,163	2,877,163
資本剰余金	1,330,204	1,330,204
利益剰余金	△3,584,250	△3,395,287
自己株式	△20	△20
株主資本合計	623,095	812,058
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	104	—
評価・換算差額等合計	104	—
純資産合計	623,199	812,058
負債純資産合計	2,263,211	2,360,455

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)
売上高	4,738,292
売上原価	3,722,563
売上総利益	1,015,729
販売費及び一般管理費	1,205,895
営業損失(△)	△190,166
営業外収益	
受取利息及び配当金	90
受取手数料	7,805
持分法による投資利益	12,683
その他	863
営業外収益合計	21,442
営業外費用	
支払利息	11,550
その他	340
営業外費用合計	11,890
経常損失(△)	△180,615
特別利益	
ポイント引当金戻入額	1,706
店舗閉鎖損失引当金戻入額	1,646
特別利益合計	3,352
特別損失	
固定資産除却損	736
特別損失合計	736
税金等調整前四半期純損失(△)	△177,999
法人税、住民税及び事業税	10,964
四半期純損失(△)	△188,963

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成21年3月1日  
至平成21年8月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△177,999
減価償却費	13,366
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	298
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△2,942
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△17,000
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△5,616
受取利息及び受取配当金	△90
支払利息	11,550
持分法による投資損益 (△は益)	△12,683
固定資産除売却損益 (△は益)	736
売上債権の増減額 (△は増加)	167,056
たな卸資産の増減額 (△は増加)	3,884
未収入金の増減額 (△は増加)	△114,250
仕入債務の増減額 (△は減少)	△24,043
その他	71,595
小計	△86,138
利息及び配当金の受取額	93
法人税等の支払額	△21,771
営業活動によるキャッシュ・フロー	△107,816
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△4,190
無形固定資産の取得による支出	△806
敷金の差入による支出	△6,512
敷金及び保証金の回収による収入	38,631
その他	△7,368
投資活動によるキャッシュ・フロー	19,752
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	100,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	100,000
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	11,931
現金及び現金同等物の期首残高	239,018
現金及び現金同等物の四半期末残高	250,950

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

#### (4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結会計期間(自平成21年6月1日至平成21年8月31日)

当社グループは、前連結会計年度におきまして、営業損失448,435千円、経常損失493,159千円、当期純損失838,179千円の重要な営業損失、経常損失及び当期純損失を計上するとともに、営業キャッシュ・フローも797,689千円の大幅なマイナスとなり、また、2期連続して営業損失を計上しております。当第2四半期連結累計期間におきましても、営業損失190,166千円、経常損失180,615千円、四半期純損失188,963千円を計上し、営業キャッシュ・フローもマイナスの107,816千円であることから、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、このような状況を解消すべく、資本・業務提携先である株式会社アニメイトとの関係を強化し、同社との人的交流を深めていくことで、店舗運営を中心とした経営ノウハウの向上、及び販売力、サービス力、商品企画力並びに新商品創出力を高めるとともに、同社と一体となって新ブランド「アニプロゲーマーズ」のブランディングを加速化することで、「アニプロ」店舗の活性化を図り、顧客満足度の高い店舗作りに取り組んでまいりました。

これらを実現すべく、具体的な体質改善及び採算性と収益性を高めるための施策は以下のとおりであります。

まず、店舗戦略としては、当第2四半期連結会計期間に今後の収益性の向上に寄与することが期待できる津田沼店を新規出店いたしました。また、平成21年9月には顧客満足度と収益性の向上を目的として当社グループの旗艦店である秋葉原店をリニューアルオープンいたしました。

第二に、店舗在庫戦略として、適正在庫水準の見直しと、これに係る管理を強化することで、過剰在庫を削減し、顧客満足度と収益性及び採算性を実現させる商品仕入の遂行と適正在庫の維持・管理に取り組んでまいります。

第三に、エンターテイメント事業として収益性の高い自社制作グッズのラインナップを強化。開発タイトルを厳選し、株式会社アニメイトとの事業シナジーを高め、女性向けゲームの開発ラインの確立を推進してまいります。

上記の施策を着実に推進することにより、経営の効率化を図り、安定的な収益基盤を構築すべく努めてまいります。

しかし、これらの対応策は実施途上にあり、また、対応策を実施してもなお、今後の景気及び顧客ニーズの動向により、早期に業績を回復できるか不透明性が残るため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(5) セグメント情報

**【事業の種類別セグメント情報】**

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年3月1日 至 平成21年8月31日)

当社グループの事業は単一であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

**【所在地別セグメント情報】**

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年3月1日 至 平成21年8月31日)

在外子会社及び重要な在外支店がないため、記載を省略しております。

**【海外売上高】**

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年3月1日 至 平成21年8月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年3月1日 至 平成21年8月31日)

該当事項はありません。

「参考」

前第2四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年3月1日 至 平成20年8月31日)
	金額
I 売上高	4,835,170
II 売上原価	3,860,625
売上総利益	974,544
III 販売費及び一般管理費	1,288,668
営業損失(△)	△314,124
IV 営業外収益	12,777
V 営業外費用	11,184
経常損失(△)	△312,531
VI 特別利益	18,978
1. 訴訟損失引当金戻入益	13,096
2. ポイント引当金戻入益	4,749
3. その他	1,132
VII 特別損失	122,776
1. 固定資産除却損	775
2. 減損損失	12,591
3. 閉店損失	20,100
4. 閉店損失引当金繰入額	24,336
5. FC解約損失引当金繰入額	10,000
6. 関係会社整理損	54,427
7. その他	545
税金等調整前四半期純損失(△)	416,329
法人税、住民税及び事業税	9,138
四半期純損失(△)	425,467

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(2) (要約) 前四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年3月1日 至 平成20年8月31日)
区分	金額
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
1 税金等調整前中間(当期)純損失	△416,329
2 減価償却費	38,489
3 減損損失	12,591
4 負ののれん償却額	△1,938
5 貸倒引当金の増減額	10,075
6 賞与引当金の増減額	△3,741
7 返品調整引当金の増減額	△7,600
8 ポイント引当金の増減額	△8,400
9 閉店損失引当金の増減額	24,336
10 FC解約損失引当金の増加額	10,000
11 関係会社整理損失引当金の増加額	27,613
12 訴訟損失引当金の増減額	△13,096
13 受取利息及び配当金	△695
14 支払利息	771
15 持分法による投資損失	1,089
16 為替差損益	4,602
17 固定資産除却損	775
18 売上債権の増減額	△201,879
19 たな卸資産の増減額	65,335
20 仕入債務の増減額	260,622
21 未収金の増加額	△113,289
22 預り金の増減額	△3,404
23 その他	9,274
小計	△304,797
24 利息及び配当金の受取額	697
25 利息の支払額	△771
26 和解金の支払額	△9,587
27 法人税等の支払額	△21,560
営業活動によるキャッシュ・フロー	△336,019
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
1 投資有価証券の取得による支出	△67
2 有形固定資産の取得による支出	△13,916
3 有形固定資産の売却による収入	2,646
4 無形固定資産の取得による支出	△4,451
5 敷金保証金の取得による支出	△174,958
6 敷金保証金の返還による収入	16,815
7 貸付金の回収による収入	1,215
8 その他	△16,352
投資活動によるキャッシュ・フロー	△189,068

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年3月1日 至 平成20年8月31日)
区分	金額
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
1 その他	△1,571
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,571
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△413
V 現金及び現金同等物の増減額	△527,072
VI 現金及び現金同等物の期首残高	704,240
VII 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	177,167

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。